

---

## 男子マラソン

---

### ● スパート成功 杉本選手逆転初V

厳寒の第5回を制したのは愛知県知多市在住の会社員、杉本芳規選手(31)。

「きついコースだったが、まさか優勝できるとは思わなかった」と喜びを満面に表した。レースを終盤まで引っ張ったのは、4連覇を狙った王寺町役場総務課職員の平田治選手(Team奈良)。杉本は序盤からトップグループにいたものの、順位を意識しないレース展開。しかし、アップダウンのきついコースに苦しみながらも終盤、韓国招待選手のイー・ヨンウク選手、杉本選手、平田選手の3人のトップ争いとなり、杉本はイーに追いつくと、一気に抜け出し逃げ切った。

「トップに出たが、足がきかなくなった。よくゴールできたというのが実感」と振り返った。

杉本選手は神戸市出身。県立兵庫工業高校陸上部から中央大学を経て実業団の愛知製鋼に入り、長距離ランナーとして走ってきたが、この春、退団。それでも一人のランナーとしてフルマラソンに挑戦している。今回は練習不足もあり、順位は狙っていなかった。

「友達に観光するつもりで参加すると言って走ったので、無欲の勝利と言えるかも」と驚きながら、「コースの特徴も分かったので次回も挑戦したい。」



---

## 女子マラソン

---

### ● 序盤から先行 山口選手が初優勝

2月の別府大分毎日マラソンでの2時間41分56秒の記録が認められて、招待選手として初参加した山口遥選手が実力通りの走りを見せて優勝した。

東京の陸上クラブAC・KITAに所属。健常者から障害者まで参加できるクラブで練習を重ねてきた。大学卒業後、22歳でマラソンを始めた。朝の起き抜けに10キロ、家事を済ませ、午後1時まで16-20キロを走る毎日。夫も同じ陸上好きで、妻のマラソンにも理解があるという。

レースは序盤からリードを奪い、同じ招待選手、大塚英梨子選手(奈良学園大)、田畑郁恵選手(スポーツオーソリティ)が追いかける展開。35キロ付近の登り坂で「上りは苦手ではないけど

、ここはきつい。自分も苦しいから後続も苦しいはず」と言い聞かせて力を振り絞った。

優勝を確信したのは陸上競技場に入ってから。「後続を確認したかったが、怖くてできなかった。寒さでもう足の感覚がなかった」と限界ぎりぎりのレースだったと打ち明けた。

同クラブの塩家吹雪監督は「寒さが無ければもっといい記録が出た」と残念そう。山口も不満が残るようで「来年はもっとまともな走りをしたい」と話した。



---

## 男子10<sup>キ</sup>

### ●松尾選手(兵庫)大会新で連覇

男子10<sup>キ</sup>は松尾維大選手(和歌山陸協)が30分55秒の2年連続大会新記録で2連覇した。「(連覇を目指して)やってきたのでホッとしている。出来る限り今後も出場したい」と静かに優勝の喜びを語った。

レースは4<sup>キ</sup>付近で優勝候補の平池宏至(兵庫)を追い抜き独走となった。「アップダウンがあるが5<sup>キ</sup>まで我慢して5<sup>キ</sup>過ぎから下りになるので、それを利用してうまく走れた」と納得の表情だ。

学生時代は3000<sup>円</sup>障害の選手。大学卒業後、西宮の食品会社に就職し、仕事が終わったあと練習に励んできた。大会にはインターネットで申し込んだが定員に達し、その後の抽選で出場が決まった。

抽選に落ちていたら、大会2連覇も大会新記録もなかっただろう。



---

## 女子10<sup>キ</sup>

### ●稲垣選手(香芝市)が初優勝

10<sup>キ</sup>女子は、35歳の二児の母、稲垣水美選手(香芝市)が初の総合優勝に輝いた。

奈良マラソンには過去2回、フルに出場したが、昨年9月に2人目の男児を出産したこともあり、今回は10<sup>キ</sup>に変更。blankを感じさせない見事な走りで復帰初戦を飾った。目標だった40分を切る38分16秒の好タイム。

「思ったよりも早く走れた。高校生ら速い人もいたので、勝てたのはびっくり」としながらも、「奈良公園のきれいな景色の中を走っていると、あっという間に終わった」と余裕の表情を見せた。

